

科目	出題の特徴	これからの学習ポイント
英語 リーディング	<p>—昨年同様、様々な場面や状況に応じた題材が取り上げられた—</p> <p>題材は昨年同様、日常的な文章や説明文など様々なものが扱われた。設問では記述内容の順序を問う問題や、プレゼンテーションのスライドを完成させる問題などが出題され、昨年同様に多面的に情報を処理することが求められた。細部まで情報整理を必要とする問題が多くなり、昨年より難化。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■内容や場面が工夫された素材が出題され、多面的なリーディング能力が問われている。「複数の情報を処理する力」や「文章の論理展開を把握する力」などを意識して伸ばしていこう。 ■限られた時間の中で、大量の英文を読む必要がある。日頃から多種多様な英文素材を短時間で読解する練習をしておこう。さらに、複数の英文と図表の内容を組み合わせるといった情報処理をすばやく行うような学習もしておこう。
英語 リスニング	<p>—イラスト並べ替え問題がなくなり、図表完成問題が出題された—</p> <p>昨年に続き、音声情報とイラストや図表などの視覚情報を組み合わせて答える問題が出題された。場面に応じた聞き取りを要する実践的な英語力が問われた。講義全体を理解する必要がある問題や、放送文からの言い換えに注意が必要な問題もみられたが、全体的に取り組みやすく、昨年よりやや易化。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■音声情報から具体的な状況やイメージを頭の中で思い浮かべられるかどうかポイントであった。話し手の意図や場面を意識しながら、音声を聞く練習を積もう。 ■今後も、音声情報と図表などの視覚情報をもとに解答したり、複数の情報を整理・判断したりするなど、多面的に情報を処理することが求められると予想される。重要な情報を逃さずに聞き取ることができるように、メモを活用して短時間で情報を整理する練習を積むとよいだろう。
数学 I・A	<p>—第2問で現実事象の問題、第3問で場合の数のみの出題—</p> <p>第2問[2]では、バスケットボールの2つの軌道を比較する「2次関数」の問題が出題された。第3問では、大学入学共通テストで初となる「場合の数」のみからの出題であった。第3問、第5問では、【構想】をもとにして解く問題が出題された。昨年と比較して、各問題の導入部分から取り組みやすいものが多く、昨年より易化。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■試験時間70分であるべく多くの解答ができるように、全体の時間配分が重要である。煩雑な計算を必要とし時間がかかる問題や、解法がなかなか見出せない問題は、勇気をもって飛ばしてほかの問題に着手するといった、時間配分を意識した演習もしておこう。 ■日常事象の問題や対話文を含む問題などでは、問題文が長く、じっくり問題を読んでいると時間切れになってしまう可能性が高い。問題文から必要な情報を素早く抜き出す訓練を積んでおこう。
数学 II・B	<p>—「積分法」「数列」で現実事象の問題。「図形と方程式」は出題なし—</p> <p>第2問[2]は、ソメイヨシノの開花日時を「積分法」を用いて予想する現実事象の問題が、第4問「数列」は、預金に関する複利計算を2通りの【方針】で考察する問題が出題された。昨年出題された「図形と方程式」からの出題はなかった。各問題の導入部分は取り組みやすいものが多く、昨年より易化。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■現実事象を題材とした第2問や第4問のように、今後も文章量が多い問題が出題される可能性がある。問題で与えられた設定や解答方針の意図を素早く把握し、誘導に従いながら解き進めるようにしよう。 ■見慣れない問題を解く際は、値を代入した結果の推測や、条件の読みかえなど、自分のもつ知識との結びつけが重要になる。焦らずに、どの知識を用いればよいか、どの条件に着目すればよいかを考え、見通しを立てて解き進めるようにしよう。

科目	出題の特徴	これからの学習ポイント
国語	<p>—全大問で複数テキストを比較・関連付ける思考力を問う出題—</p> <p>全大問で複数のテキストが提示され、全体の文章量はやや増加。第2問では本文と同時代に作成された広告を踏まえて本文の表現を考察する出題、第4問では官吏登用試験の【予想問題】と【模擬答案】を用いた出題がなされた。応用的・発展的な思考力がより求められ、昨年よりやや難化。</p>	<p>■生徒の学習過程を想定した設問や、複数テキストを比較・関連付ける応用的思考力を問う設問が出題される。本文の構成や展開を的確にとらえ、論旨や内容を正確に読み取る力に加えて、複数の文章や資料の共通点や相違点といった関連性をとらえる力が求められる。文章の表面的な読解にとどまらず、その根底にあるテーマや、表現の意図にまで着目して、深く考える力を身につけよう。</p>
世界史B	<p>—資料読解から一步踏み込み、吟味・活用する力が求められた—</p> <p>大問数・解答数は変更なし。昨年と比べて、会話文や資料の分量が増加した。加えて、これまで以上に学習した知識をもとに資料を読解し、吟味・活用する力が求められた。難易は昨年より難化。</p>	<p>■資料の性質を踏まえて多様な資料を読み取り、読み取った内容を吟味・活用する演習を積み重ねよう。</p> <p>■資料や知識に基づきながら、歴史上の出来事同士の因果関係を想起・考察する力など、歴史上の出来事を多面的・多角的にとらえる視点を身につけよう。</p> <p>■会話文の読解を要する問題に対応するために、生徒や先生がどのような資料に着目し、どのような視点に立って会話を展開しているのか、会話文の主題を把握しながら判断する力を培おう。</p>
日本史B	<p>—初見史料が多く、丁寧な読解が求められた。社会経済史は減少—</p> <p>大問数、解答数に変更はなかった。多くの文章資料に加え、年表・地図のほか、旅行の行程表などのさまざまな資料が用いられ、所与の資料を読み取り解釈する力が引き続き求められた。題意や資料趣旨の把握に負担を要する問題も引き続きみられたものの、全体的に難問が減少した。昨年より易化。</p>	<p>■歴史を考察する多面的・多角的な視点が求められる。同じ出来事でも、立場や視点を変えるとどのような評価ができるのか、学習内容と関連づけて考えよう。</p> <p>■多様な多くの史資料を読解する力が求められる。教科書や資料集などを活用し、さまざまな史資料に慣れておきたい。史資料から読み取れることを自分でまとめるなど、ポイントや趣旨を把握する訓練をしよう。</p>
地理B	<p>—多様な資料が扱われ、知識の活用と事象の背景や条件への深い理解が求められた—</p> <p>地図や統計表、示し方が工夫されたグラフなどを含む多様な資料が用いられ、図表読解力と地理的思考力が問われた。第3問と第5問では探究活動の場面設定で大問が展開された。一部資料の読み取りに時間を要する設問がみられた。地理的な知識を用い、事象を考察する力が問われた。難易は昨年並。</p>	<p>■複数の事項を組み合わせて深い思考力を問う問題が出題される。資料に示された数値の変化や差異がみられる点に着目することが大切になる。また、学習した原理原則や扱った統計を整理して、自分で表現することで、多彩な資料を読解する力も身につけよう。</p> <p>■地誌の学習では、単に国ごとに特徴を確認するだけでなく、どのような自然的・社会的条件があるのか背景を考察するなかで地域へ視野を広げ、理解を深めよう。</p>

科目	出題の特徴	これからの学習ポイント
倫理	<p>—選択肢数や文章量が増え、正確な判断に時間を要した—</p> <p>大問構成や出題分野は昨年同様であった。組合せ問題では8択が増加し、昨年みられなかった7択、9択が出題された。知識や読解力、判断力などを組み合わせて問う多面的・多角的な出題が増加したため、受験生は解答に時間を要しただろう。昨年よりやや難化。</p>	<p>■思想家や思想内容について、重要な語句や用語は単に覚えるだけでなく、意味も理解しておこう。また、さまざまな思想家の共通点や相違点、ほかの思想家や思想への影響や批判なども含めて理解を深めておこう。</p> <p>■文章の読解力を身につけよう。原典資料や思想についての説明を読解する力や、文章の趣旨を論理的に思考する力を養うために、日ごろから原典資料などに親しんでおこう。</p>
政治・経済	<p>—正確な知識をもとに多様な資料を読解し、考察・判断する力が求められた—</p> <p>「倫理、政治・経済」との共通の設問が4大問中3大問で出題された。国際政治分野・国際経済分野からの出題が増加した。ほとんどの設問に統計や模式図などの多様な資料が用いられ、それらを読み解くための土台となる幅広い正確な知識や考察力などの、総合的な学力が求められた。昨年より難化。</p>	<p>■基本的な用語、原理・原則を確実におさえておくことが大切である。単に用語を覚えるだけではなく、その用語の意味や内容を、具体的な事例にあてはめながら理解しておこう。</p> <p>■新聞やニュース、資料集などを活用し、日頃から文章や統計資料の読解に慣れ親しもう。文章や資料に示されている内容をそのまま理解するだけでなく、その原因・背景にあることや与える影響なども思い浮かべながら読むことで、ものごとを様々な観点から考える力を身につけよう。</p>
現代社会	<p>—国際経済からの出題が増加。多様な資料を読み解き考察する力が求められた—</p> <p>国際経済分野からの出題が増加した。すべての大問で生徒の活動場面が題材となり、学習した事項を具体的な事象に関連づけて考察することが求められた。基本的な知識を中心とした出題であったが、文献や統計、模式図などさまざまな資料が扱われ、多くの情報を効率よく読み解く必要があった。難易は昨年並。</p>	<p>■多様な資料を読解して解釈する力や、複数の資料を関連づけて考察する力が要求される。普段から資料集などをよく読んでおきたい。また、資料の読み取りだけでなく、資料をどのように活用していくかということも考えるようにしよう。</p> <p>■知識をもとに考察する問題に対応するために、用語の暗記だけではなく、用語の内容まで正しく理解しておくことが重要である。また、事象同士の横のつながりを意識しながらの学習や、異なる分野の事象がどのように影響し合っているかを関連づけながら学習をすすめよう。</p>
倫理、 政治・経済	<p>—正確な知識と資料読解を組み合わせ考察力を問う問題が増加—</p> <p>すべての設問が単独科目「倫理」および「政治・経済」と共通であった。倫理分野では、資料の読み取りと知識の組合せが問われ、政治・経済分野でも、文章資料や統計、模式図など多様な資料を読み取り、正確な知識を活用して考察する力が求められた。昨年より難化。</p>	<p>■「倫理」では、現代社会の課題に対して、何が問題でどのように解決していくことができるのかについて問題意識を持ち、思想家のこぼしを想起しながら考えてみよう。</p> <p>■「政治・経済」では、新聞やニュース、資料集などを活用し、日頃からさまざまな文章や統計資料に慣れ親しみ、問われている内容を正確に理解する力や、複数の資料から必要な情報を抽出する力、抽出した情報を関連づけて、原因、結果、背景、影響などを考察する力を身につけよう。</p>

科目	出題の特徴	これからの学習ポイント
物理基礎	<p>—風力発電についての探究活動を題材に、発電と送電のしくみについて問われた—</p> <p>風力発電についての探究活動を題材に、発電と送電のしくみについて問われ、日常や社会を意識した出題がみられた。また、自由落下させた小球と鉛直に投げ上げた小球について、床に到達する時点での運動エネルギーの大きさを定性的に判断させる問題が目新しい。難易は昨年並。</p>	<p>■ 日常の場面でみられる事物・現象について、教科書にある物理法則や公式と関連づけて、定性的に考察する習慣をつけておこう。また、物理基礎で学習した内容が、どのような場面に関連しているのかを意識するようにしよう。</p> <p>■ 授業などで実験をする場合には、作業するだけではなく、実験の設定や操作、結果にどのような意味があるのかを考察したり、仮説を立てて検証する態度も身につけよう。また、データ処理やグラフの表し方・読み取り方についても身につけておこう。</p>
化学基礎	<p>—しょうゆに含まれるNaClの量を測定する実験が出題された—</p> <p>第1問では、教科書に沿った基本的な問題が数多く出題された。第2問では、しょうゆに含まれるNaClの量を測定する実験が出題され、長い問題文を読み、操作や反応のしくみを理解して考察する力が求められた。グラフを選択する設問や、数値そのものをマークする形式の設問もみられた。難易は昨年並。</p>	<p>■ 教科書を中心に基本的な内容をまんべんなく理解しておくことが大切である。学習した内容は確実に定着させておきたい。</p> <p>■ 共通テストでは、見慣れない実験に関する原理や操作、結果からの考察などについて問われることが今後も予想される。まずは教科書で扱われている実験について、原理や操作の意味、結果から導かれる事柄などを、確実におさえよう。</p>
生物基礎	<p>—グラフや実験の解釈を通して思考力を問う設問が数多く出題された—</p> <p>実験結果を論理的に考える力、グラフを読む力など、多様な科学的思考が問われ、分野融合形式もみられた。知識が必要な問題も、そのまま問うのではなく、知識を活用して判断する必要があった。昨年と比べ、全体のページ数は減少したものの、解答数・設問数・選択肢の数などは同程度で、難易は昨年並。</p>	<p>■ 目新しい題材や目新しい実験を扱った問題にも対応できるよう、教科書に掲載されている重要用語は単に覚えるだけでなく、図式化することを通して現象やしくみを理解しておこう。</p> <p>■ 観察・実験の結果などのデータを、授業で学んだ知識と関連づけて、論理的に解釈する経験を積んでおこう。また、対照実験を含めた実験の設定方法についても身につけておこう。</p>
地学基礎	<p>—地球の大きさの推定など、探究活動に関する問題が多かった—</p> <p>第1問では、離れた地点に住む2人によるエラトステネスの方法の実践に関する計算問題や、柱状図から堆積速度を比較する考察問題が出された。第2問では、海面水温の図を参考に黒潮の流路を選ぶ問題が出された。図を用いて思考力や判断力を問う出題が多い傾向は昨年と変わらず、難易は昨年並。</p>	<p>■ 昨年と同様、特定の分野に偏ることなく、幅広く出題された。日本列島の自然の恵みについて、独立した大問として出題された。</p> <p>■ 昨年と同様、岩石の成因や降水の原因など、物事に関する深い理解を問う設問が複数みられた。</p> <p>■ 離れた地点に住む2人によるエラトステネスの方法の実践に関する計算問題や、火山の性質をまとめた図に関する考察問題など、探究活動を意識した問題が複数出された。</p>

科目	出題の特徴	これからの学習ポイント
物理	<p>—落下運動やコンデンサーに関する探究活動の問題が出された—</p> <p>空気中での落下運動やコンデンサーの充電と放電に関する探究活動の問題が出された。グラフの縦軸・横軸の選び方を工夫して関係を見出す手法や加速度の大きさを求めるための手順を問う点、実験データからより正確な電気容量を推定するための解析方法の工夫を問う点が目新しい。難易は昨年並。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■日ごろから実験に積極的に取り組み、実験の経験を積んでおきたい。 ■グラフを読み取って考察する問題は、今後も出題が予想される。日ごろから、グラフから読み取れる情報をもとに、推測・判断する経験を積んでおこう。 ■目新しい題材や目新しい設定の問題にも対応できるように、日常の場面でみられる現象と物理法則がどのように関連しているのか広く考えることを、普段から意識しよう。
化学	<p>—実験を題材にした問題が多く、紫外線の透過率を扱った問題が目新しい—</p> <p>文章を読み解く問題や知識を活用する問題が数多く出され、思考力を要した。実験を題材にした問題も多く、グラフを描図して考える問題や数値そのものをマークする問題も出された。紫外線の透過率から二酸化硫黄の濃度を求める問題が目新しい。難易は昨年並。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■教科書を中心に基本的な内容をまんべんなく理解しておくことが大切である。学習した内容は、確実に定着させておきたい。 ■教科書に掲載されている実験や探究活動について、その意図や手法をしっかりと理解しておきたい。さらに、得られたデータから、作図や計算をする演習も積んでおこう。 ■問題演習に取り組み、問題の概要を把握する力と、与えられた問題文や図・グラフの情報をもとに正答の導出過程を考察する力を磨いておきたい。
生物	<p>—さまざまな切り口の実験考察問題がみられ、高い思考力が求められた—</p> <p>全6大問必答で、複数の大問で分野融合問題が出された点は昨年同様であったが、大問間での配点のばらつきは昨年より小さくなった。全体的に、判断すべき情報量が多く、知識を活用して実験結果を読み取る必要があり、昨年より難化した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■教科書に記載されている知識を覚えるだけでなく、分野どうしのつながりや、身のまわりの現象との関連を考える習慣を身につけよう。 ■問題文、設問文、複数の図表・グラフなど、多くの情報から必要な情報を読み取る練習をしておこう。 ■実験結果を解釈するだけでなく、その実験は何を明らかにするために計画されたのかを考えるなど、仮説を立てたり、実験を設計したりする視点をもとう。
地学	<p>—グラフから読み取った数値をもとに考察する問題が多く出された—</p> <p>第1問では、二次元の図から三次元的な構造を推定することを主題として、幅広く出題された。第3問は、マグマ混合により生じたマグマの特徴について考察する目新しい問題であった。図表の読み取りを求められる問題が多かったが、地学基礎の知識で解答できる問題も多く、難易は昨年並。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■教科書に掲載されている基本的な内容をまんべんなく身につけておこう。このとき、地学基礎の関連事項も合わせて確認しよう。 ■図やグラフから必要な情報を抽出する力をつけるために、教科書や図表集の図からどのようなことが読み取れるのかを考えることを心がけよう。また、文章や数値で書かれた情報を、図や表の形にまとめてみよう。